

4月の学級づくり【小学校版】

人は、人とのかかわりの中で、人との関係性の中で、自尊感情や自己有用感を高めていきます。しっとりとした学級、間違えることが許される雰囲気のある集団が、児童の育ちを支えます。



万物が躍動する4月、新たなステージの始まり。笑顔集まる学級づくりに真心こめて取り組みましょう。

「学級を開く」教師の心構え

教師として、一番緊張し、体中の感覚を研ぎ澄まし、全エネルギーを注ぎ込まなければならない正念場。それが「学級開き」です。それは、新年度を迎えた子どもたち一人一人のあり様をじっくりと観察しながら、これから始まる一年間を思い描き、「学級の物語（ドラマ）」を立ち上げていく大事な営みです。子どもとテーマ（学級の中心活動となる題材）をどう出会わせていくか、その出会いにおける子どもたちの姿（声や表情、ふるまい）をどう受け止めて、「学級の物語」の幕開きを決意していくか、そして、その後の物語をどう紡いでいくか、そういった繊細かつ大胆な教師の構想力と見極めが何よりも大切です。「学級開き」は、これからの一年間を左右する運命の時と場であることを意識しながら、夢のあるダイナミックな「学級の物語」をスタートさせましょう。

心を拓く

1 子どもを見る

業間休み、日記を見ていた私に、同じ学年の先輩が声をかけてくださいました。「こんな温かい春の日にちょっとベランダで、ぼーっと子どもたちを見てごらん。」そこには、いつもは人と関わらずに口ごもっていたNさんが、けんかした仲間の1人に慰めの声をかけている姿がありました。

2 子どもの声を聞く

ある日、T君の文字数の少ない日記を見て「ここはどうなの」とコメントを書き、多くのことを書けるようにと願っていた私に、T君は「精一杯書いているんだけどな」と小さな声で言ってくれました。

子どものあるがままの姿を見る、心の言葉を聞くことは、教師が子どもと、ともにあることから始まります。教師が心を拓いてかかわる中で、見えてくるものがあると教わりました。

自分たちでつくる教室・係活動

新しい教室。ダンボールに入れられた教室財産。「君たちの教室だから、君たちでつくってごらん」と声をかけると、子どもたちは、掲示物をはったり、道具を置いたりします。その中で、「友だちにどうしてここにこの道具をおくのって言われたよ」「係の（掲示する）紙はどうするの」などと言ってきました。立ち止まりは一つのチャンスです。

1 子どもに切り返す

「みんなにどうすればいいかって聞いてみたらどう？」
「係は、どんな係がいるの」と、考える場をつくる。

2 みんなで考え合う

問い返すだけでなく、みんなで考える場を保障する。
「ここにこれがあるといいよ」「整頓係って必要なの」「省エネ係はこういう仕事ももっとできる」等、皆でアイデアを出し合う。

「必要とされる仕事」を「児童自身が見いだす」意味を考えさせられました。

学級づくりはまず学級目標づくりから

学級目標は生徒の願いの詰まったものにしましょう。（ある程度時間をかけましょう）一例を紹介します。

1 担任・副担任の思いを語る

先生の大切にしていること、大切にしたいことや願いを語る。説教にならないように注意！

2 すべての生徒の思いを徐々に集約する

学級への願いを紙に書く。1人がいくつも書くようにしたい。大切なのは自由さ。書いたことは全て認められ他からは攻撃されないこと。（付箋を使うとよい）
書かれたものの共通点や相違点を考えながら、グループ化し、そのグループをまとめる言葉を考える。紙を使う場合は封筒に入れて封筒にまとめる言葉を書く。付箋の場合は画用紙などにグループ別にはってまとめる。

3 みんなで一つの目標を決める。

の方法を繰り返し、3つほどの言葉（願い）に集約する。この3つの言葉を、一文にして学級目標にする。すべての児童が参加して作った目標である。